

ColorFlex® L2 クイックスタートガイド

A60-1021-396 ver. 2.1



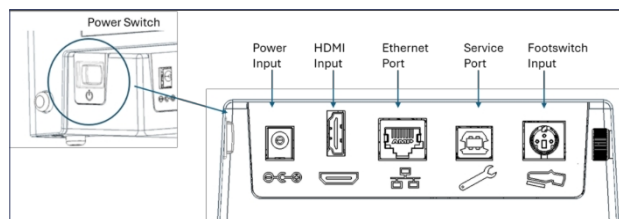
世界における真の色の基準

HunterLab

A

装置のセットアップ

1. AC アダプタのプラグを、ColorFlex L2 の背面にあるポートに接続します。



2. AC アダプタの電源コードを壁のコンセントに差し込みます。
3. 装置背面のスイッチを使用して、ColorFlex L2の電源を入れます。
4. Essentials ソフトウェアが自動的に起動し、「初回セットアップ」ダイアログが表示され、言語、地域、日付、時刻の設定が求められます。設定が完了したら、「完了」をクリックしてください。
5. 上記のセットアップが完了すると、機能を紹介する「ウェルカムウィザード」が表示されます。画面の指示に従って、ソフトウェアの操作に慣れてください。完了すると、装置は標準化の準備が整います。右上隅にある HunterLab アイコンをクリックすれば、いつでもウィザードを再実行できます。
6. (オプション) HDMIケーブルを使用して、モニターをColorFlex L2に接続してください。

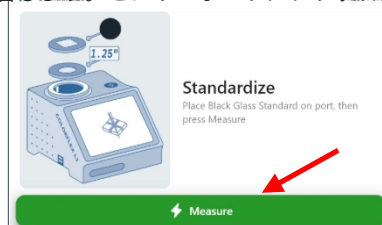
B

標準化

1. 画面上の「STANDARDIZATION」ボタンを押してください。



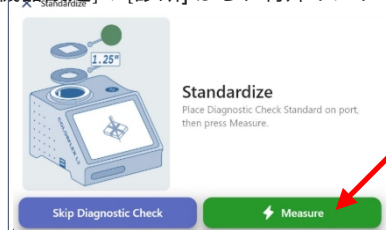
2. サンプルカップポートプレートを装着します。センサーポートにブラックガラス標準品をセットします。「MEASURE」ボタンを押します。



3. 指示が表示されたら、ブラックガラス標準品を取り外し、認定機器標準品（白）をポートにセットします。「MEASURE」を押します。



4. 認定機器標準（白）を取り外します。次に、診断チェック標準（緑）をポートに置き、「MEASURE」を押して続行します。1インチの標準ポートプレート用の診断チェック標準値は、工場出荷時に設定されており、標準プレートの裏面に記載されています。
- お客様が標準化モードで他のポートプレート（例：サンプルカップインサートやカスタムインサート）を設定する場合、最初の特種ポートプレートの標準化には、診断チェック標準の測定を5回行います。診断チェック標準の測定を行い、その平均値を、その特定のポートプレート標準化モードにおける今後の診断標準チェックの目標値として使用します。
 - ユーザーは、[システムメニュー] → [機器設定] → [診断] から、特殊インサート／ポートプレートの診断チェック標準の目標値をリセットできます。



オプション：「診断チェック標準」テストをスキップするには、「SKIP DIAGNOSTIC CHECK」をタップします。スキップすると装置の性能に影響が出る可能性があり、警告メッセージが表示されます。

注：診断チェック標準のテストに失敗した場合は、認定機器標準（白）、診断チェック標準、およびまたは黒ガラス標準を洗浄し、テストを再度実行してください。問題が解決しない場合は、HunterLab サポートにお問い合わせください。

C サンプルの測定

1. 試料を準備し、ポートの中央に配置します。「MEASURE」を押します。



新しい機器の電源を入れると、以下のデフォルトのワークスペースが読み込まれます：

表示：カラーズ EZ View
 ケール：被検体 CIELAB 絶対 D65/10
 /観察者： 度
 標準タイプ：アドホック／ワーキング

注：CIELAB (D65/10) と HunterLab (C/2) の2つのデフォルトのワークスペースが読み込まれています。これらのワークスペースは変更できません。ただし、デフォルトのワークスペースを編集して新しいワークスペースとして保存したり、既存のワークスペースを基に新しいワークスペースを作成して、そこで編集したりすることができます。

D 標準の作成

1. デフォルトのワークスペース（標準タイプ：アドホック／ワーキング）では、最初に測定されたサンプルが自動的に標準として設定されます。これを変更するには、新しいサンプルを測定し、「サンプル名」ボックスの鉛筆アイコンをクリックして、「標準として設定」を選択します。



E

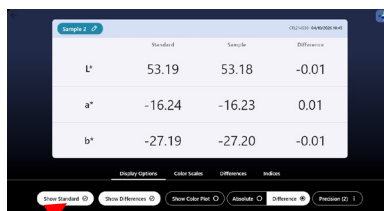
簡単な差異を表示するようにEZ VIEWを編集する

1. EZ View 画面で、編集アイコンを選択します



EZ Viewタブで。次に、

表示オプション。「標準を表示」および「差異を表示」の横にあるラジオボタンを選択すると、簡易的な差異が表示されます。



	Standard	Sample	Difference
L*	53.19	53.18	-0.01
a*	-16.24	-16.23	0.01
b*	-27.19	-27.20	-0.01

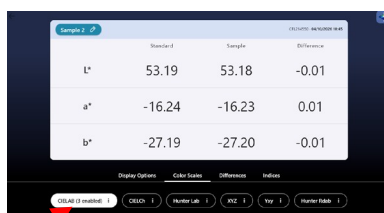
F

EZ View でのカラースケールの編集

1. EZ View 画面で、編集アイコンを選択し、必要なカラースケールを選択します。



EZ View タブで。次に、

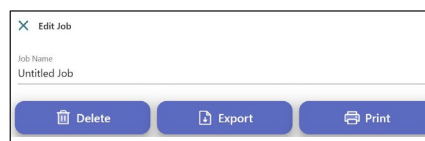
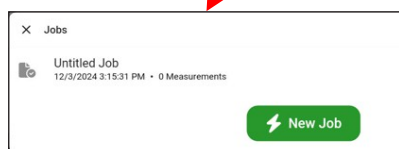
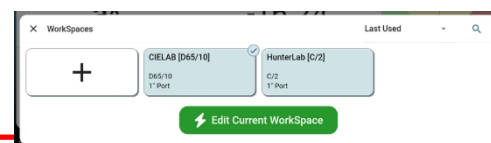
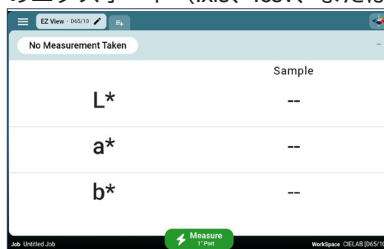


	Standard	Sample	Difference
L*	53.19	53.18	-0.01
a*	-16.24	-16.23	0.01
b*	-27.19	-27.20	-0.01

G

ワークスペース／ジョブの変更または追加

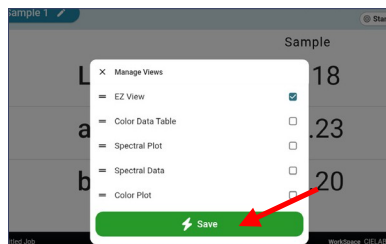
1. 画面右下の「ワークスペース」名をタップして、ワークスペースを変更または新規追加します。ワークスペースダイアログの指示に従って、差異やインデックスの編集、読み取りオプション、データエクスポートオプションなどを設定してください。
2. 画面左下の「JOB」名をタップして新しいジョブを作成するか、既存のジョブをタップしてジョブ名の編集、ジョブの削除・印刷、ジョブのエクスポート（.xls、.csv、または.pdfファイル）を行ってください。



H

ビューの追加

1. 「EZ View」タブの横に  をクリックして、他のビューを追加します。目的のビューの横にあるボックスをクリック
ある **希望するビュー**の横にあるボックスをクリックしてビューを選
択します。「保存」を押します。

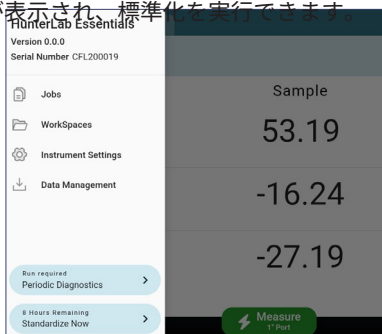


I

「システム」メニューの詳細

画面の左上隅にある3本線のアイコンをタップして、システムメニューを起動します：

1. 「ジョブ」および「ワークスペース」は、ワークスペース／ジョブダイアログを開くための別の方法です。
2. 「機器設定」では、標準化間隔の選択、ColorFlex EZ 機器からの製品設定のインポート、日付/時刻の変更、言語の選択、画面の向き反転、ネットワーク設定、診断、およびセキュリティ設定を行うことができます。
3. 「データ管理」では、ジョブおよびワークスペースのファイルを .ezm2 形式（外部アプリケーションでは読み取れません）でフラッシュドライブに保存できます。
4. 「定期診断」では、診断のステータスが表示され、ユーザーが診断を実行できるようになります。
5. 「標準化」では、現在のステータスが表示され、標準化を実行できます。



本装置の使用に関するより詳細な手順については、『ColorFlex® L2 ユーザーマニュアル』をご参照ください。

装置のメンテナンス、操作、修理に関する詳細については、support.hunterlab.com をご覧ください。